



あいかんきょう



2008/07/20

会報・第96号



珊瑚礁

提供：(株)環境科学研究所
荒尾一樹氏

四季折々

省エネが叫ばれる昨今、ほとんど自然エネルギーだけで暑さをしのいでいた昔の人は、どのような工夫をしていたのだろう。歳時記(平凡社 季語辞典)から探してみた。「浴衣」、「打水」、「団扇」、「甚平」は今も使われている。「日傘」は江戸時代には男も使っていたが、禁制になったようだ。「陶枕」、「竹床机」がこのごろあまり見られなくなったが、これらは夜間の気温の上昇にも影響されたのだろうか。夏の楽しみは今も「花火」である。花火は徳川幕府が特別に許可した地域だけで作られ、初期の花火は木炭、硫黄と硝石(硝酸カリウム)だけで作られた。江戸時代にし尿の処理として、肥汲みを生業とした者は、農作物の肥料としてだけでなく、火薬材料の硝石を厩から採取したと言われる。この地方は花火の製造が盛んで、「清洲小学校花火関係資料集」によると、寛永年間から毎年六月十四日(新暦の七月十四日ころ)の例祭では仕掛け花火のからくりや立物が見られた。ともあれ、今年の夏は高温多雨の年らしい。外で作業をすることの多い我々には、つらい夏かも知れないが、せめて花火の日は晴れた日でありませう。

第二十五回通常総会開催

第二十五回通常総会が五月十六日(金)午後三時からプリンセスガーデンホテルで、愛知県環境部地球温暖化対策監河根清様、愛知県産業労働部商業流通課計量センター主幹小関文彦様を来賓としてお招きし開催されました。

総会では、平成十九年度事業報告と平成十九年度収支計算書で収入総額二一、三二六、八二八円、支出総額一八、四八三、一三六円で次期繰越二、八四三、六九二円が審議され、原案どおり承認されました。



従業員表彰受賞者

氏名	所属事業所
青木慶史	東亜環境サービス株式会社
大澤篤司	株式会社 環境公害センター
折登宏之	株式会社 大同分析リサーチ
河合邦雄	株式会社 愛研
小林高志	社団法人 愛知県薬剤師会
近藤淳子	財団法人 東海技術センター
酒井崇浩	株式会社 環境公害センター
佐藤祐三	中外テクノス株式会社中部支社
田代秀和	株式会社 ユニチカ環境技術センター-中部事業所
田村享子	株式会社 東海分析化学研究所
野場理加	株式会社 ユニチカ環境技術センター-中部事業所
平家正佳	サンエイ株式会社
水野敦夫	株式会社 イズミテック
溝上浩	株式会社 ユニケミー
三輪千恵子	株式会社 ユニケミー

また、総会に先立ち、長年にわたり計量士として計量管理の推進に尽力し、計量技術の向上と計量思想の普及に貢献のあった社愛知県薬剤師会の長尾隆宏氏、財東海技術センターの阪野二郎氏が愛知県計量関係功労者として、愛知県知事から表彰を受けました。

次いで愛知県環境測定分析協会正会員従業員表彰が行なわれ、濱地光男会長から十五名が協会会長表彰を受けました。

総会終了後、日本化学試験所認定機構試験所認定センター部長平賀要一氏による「ISO/IEC17025の総論」の特別講演があり、会員の皆様が熱心に聞き入っていました。

平成二十年度 環境月間のつどい

平成二十年度「環境月間のつどい」が愛知県主催で六月五日(木)愛知県女性総合センター(ウィルあいち)ウィルホールで開催されました。主催者のあいさつで稲垣隆司副知事が地球温暖化対策をひとりひとりが努めて行ないましょうと呼びかけるとも

に、第九回締約国会議が二〇一〇年に愛知・名古屋で開催されるとの報告も行なわれしました。

その後、環境保全功労者関係表彰式が行なわれ、長年にわたり環境保全の推進に尽力し顕著な功績をあげた五団体、個人十三名、また、環境保全行政に従事し顕著な功績をあげた個人三名、環境衛生事業に尽力し顕著な功績をあげた個人二名が表彰されました。環境衛生事業の表彰に当協会の濱地光男会長が表彰を受けました。



講演では、俳優であり気象予報士の石原良純氏が「空を見よう!地球の未来を考えよう」と題して、環境問題と気象について、芸能活動の話などをまじえ、観客を楽しませた講演が行なわれました。

平成二十年度 環境月間講演会

六月五日は環境の日、六月の二ヶ月間が「環境月間」です。そこで、社日本環境測定分析協会中部支部と社愛知県環境測定分析協会が共催で、六月十三日(金)愛知県産業貿易館で平成二十年度「環境月間講演会」を開催しました。

主催者の濱地会長があいさつで最近の地球環境問題や分析事業の重要性などを説明、その後、特別講演が行なわれ、愛知県顧問の林清比古様から「生物多様性と第十回締約国会議(COP10)について」と題してご講演があり、人間と生物の係わり方や種の保存の必要性等、また、五月三十日にドイツのボンで開催されたCOP9で、次期締約国会議を愛知・名古屋で開催が決定された報告がパワーポイントを用いて行なわれました。

また、愛知県環境部環境政策課主幹の林和寿様から「愛知県環境基本計画について」のご講演、愛知県環境部大気環境課課長補佐の木下文己様から「アスベストの話」と題した講演があり、約一四〇名と盛況な講演会でした。

ISO/IEC17025

聴講記

会員の皆様には既に「ご案内の通り、本年度より当協会において「ISO/IEC17025を学ぶ」という講座が開催されます。これに先立ち、第二十五回総会において「JCLAの平賀要一氏より「ISO/IEC17025の総論・規格は何を求めているか」と題した講演を聴講しましたので以下にその概要を報告します。



1 試験所がおかれている状況
試験所から提出するデータは、その依頼者や結果の利用者から、その信頼性についての保証を要求されている。
このような状況での試験所の信頼性は、権威にたよる方法と 試験所自らの活動による信頼性の獲得の2つの方

法がある。 は認定・認証・登録などの資格を得て信頼性を確保するということに対し、

は自己の正当性を客観的に証明するというものである。
近年、環境分析業がそれなりの地位を占めるにつれ、そのデータの信頼性に疑問がもたれることもあり、の権威だけにたよる方法とは別の評価方法が必要とされてきた。

2 マネジメントシステム(MS)への期待
ある事業所が行っている活動は、それがたとえ文書化されていなくとも、その手順・要領等は既に存在しているはずである。従って、ISOのMSはこれらの活動をISOの要求事項に照らし合わせ、その事業所の実態に合わせた形に作るのが本来の姿である。ところが、ISOの要求事項や認証審査の視点のみで捉えられると、本来の事業活動とはかけ離れた、形骸化したMSが出来上がることが多い。従って、ISO19001に限らずMSの認証は、事業の実態を表したMSでなければならぬ。

17025では、「管理上の要求事項」(従来のISO9001とほぼ同じ)に加え

「試験結果の妥当性におけるMS」が導入されている。

3 17025の生い立ち
17025の発祥は第2次大戦に遡る。オーストラリア政府が、連合国軍に砲弾の検査結果の保証を得るため、試験所に対する要求事項を規定したことが始まりである。戦後、兵器調達のために、検査機器の校正精度を改善しようと試験機関の間で共同の相互評価を行いはじめたこれがNATAである。

NATAは信頼のある検査機関の集まりで、これに加わるための資格審査が認定審査である。その後、NATA規格からISO/IECガイド25を経てIEC17025となった。

4 ISO9001との違い
ISO9001の認証は試験所全体(サイト)を対象としているのに対し17025は試験所ではなく試験規格を対象としている。

従って、全ての規格を網羅することは困難であり、認定した試験のみMSで運用する。登録を目的とした認定取得(形式的な管理)だけでは17025試験所認定の信頼性低下につながりかねない。このことより次項の「自己適合性宣言」が重要となる。

5 自己適合性宣言

自己適合性宣言とは、自己責任による自己主張であり、試験所が「17025の規格に基づいて事業を行っており、そこから出された試験結果は信頼されるものである」と自己宣言することである。

このことに関して17025は以下のことを要求している。

- ・品質マニュアルの作成
- ・SOPの作成
- ・技術的記録の作成と保管
- ・必要な手順文書

依頼者はこれらの資料提出を要求することが出来る。提出できなければ「自己適合性宣言」はつそと云うことになる。

認定取得と自己適合性宣言の活用の方法として、ある試験規格について認定を取得し、そのマネジメントシステムを他の試験規格について水平展開して、認定によらず自己適合宣言を適用することが推奨される。

6 試験所におけるニーズ

わが国では規格要求事項そのものを、守るべき基準であるという考え方があったが、近年、規格要求事項は自己主張のための妥当性基準やニーズへの対応にシフトしている。試験所でのプロセス例を図に示す。一連のプロセスの中で次

のような事項が必要とされる。
適切な契約履行
顧客の不十分な要求に対し、

顧客の専門家である試験所が、法令・規制の要求を踏まえ、用途に応じた個別の具体的要求として契約を履行しなければならない。
試験工程の管理
これらは規格に定められており、監視基準の設定、技術的記録、測定データと基準値の比較、データの評価など。

教育・訓練と資格付与
新入社員に対する基礎教育、試験担当者に対する業務実行能力の訓練、管理者・監督者に対する必要な力量の付与など。

設備管理に関すること
日常点検、定期点検などの設備管理と修理。
顧客とのコミュニケーション
顧客情報を経営に反映させ、顧客からの問い合わせや苦情に対し迅速・的確な対応をすること。

7 マネジメントシステムの構築
品質MSの決定は組織による戦略上の決定であり、経営のトップが行うものである。

MSは均一化したものではなく、それぞれの試験所に特有なものであってよい。即ち、それぞれの事業活動は、既にPDCAのサイクルで行われ

ているはずであり、この活動をISO規格でチェックし、必要に応じて修正すればよい。

信頼性は他人に頼らず自分たちで作ることが先決で、現在の事業運営とISO規格を比べて、自分たちに合ったものを作ること。

コストパフォーマンスを十分に理解して自分たちに合ったものをつくること。

結果を保証できる試験管理体制を構築すること。SOPどおりにやっていることではなく、科学的な論理性に裏付けられた管理が必要である。

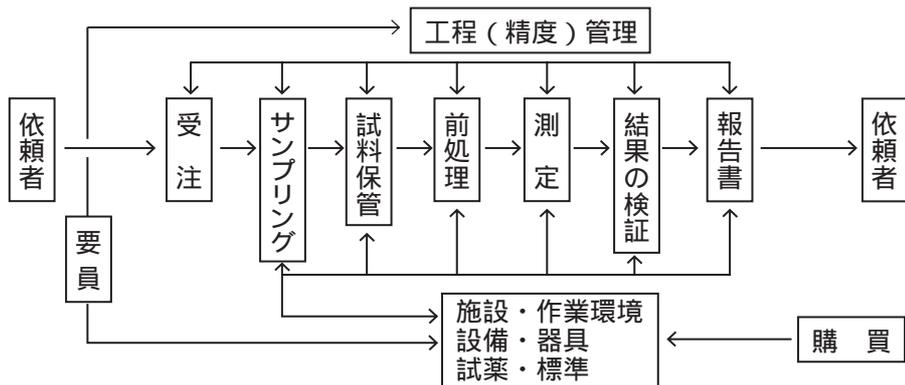
以上が講演の概要です。

平賀氏の言葉を借りれば、「我々の事業活動自体が17025から大きく外れていることは考えられない。その上で、規格で要求される文書があり、現在行っている活動を維持改善するためにその文書があるということです。従って、その仕事に携わっている人がその文書をつくることのできるわけで、全員がMS活動に参加するということが意味がある。今やっている仕事が17025に合致しているかどうかをチェックし、合致

していれば文書化し活用することを勧めます。」

協会では、今後3回にわたり「ISO/IEC17025を学ぶ」講座が開かれますが、ぜひ出席いただき事業活動の進展に役立てていただくことを希望します。

(広報委員 K・S) 試験所でのプロセス例



委員会活動報告

総務委員会

委員長 阪野 二郎

今年度第一回委員会を四月九日に開催しました。

三和油化工業株からの新規正会員入会申込みについて、三月三日に実施した面談の結果を報告し、総務委員会は「入会可」として四月九日に開催した理事会に上程し、承認されました。また、東亜DKKからの賛助会員申込みについて、「入会可」として理事会に上程し、承認されました。

正会員従業員表彰候補者十五名について、「正会員従業員表彰規程」表彰基準を満たしていることを確認し、理事会に報告しました。該当者十五名は総会前の式典にて表彰されました。

今年度総務委員会が担当する行事を確認しました。

今年度も愛環協行事を推進していきますので、会員の皆様のご支援及びご協力をお願いいたします。

企画委員会

委員長 鬼頭 富雄

「ISO/IEC17025 講座開講について」

五月十六日の当協会総会においてJCLAの平賀要一氏

を招き「ISO/IEC17025を学ぶ」の総論について講演いただきました。計量証明事業に携わるものとして意義ある内容の講演でした。今後、中京大学文化市民会館において、八月七日(木)には財東海技術センターの阪野二郎氏による「管理上の要求事項」、十月九日(木)にはユニケミ株の服部寛和氏による「技術的要求事項」、十二月三日(水)には株環境科学研究所の牧原大氏による「不確かさ」と、二回にわけて概要説明を開催する運びとなりました。

委員のみなさまには是非「ISO/IEC17025を学ぶ」に多数参加していただきたくご案内いたします。

教育・研修委員会

委員長 河野 洋一郎

一月二十二日「SOP研修会」が開催されました。参加者は二十一名でした。

前回のアンケート調査結果より、時間が足りないとの指摘が多かったため、今回は午前10時から午後四時20分まで座学、演習、演習の発表の内容で実施しました。研修時間は、今

程度で良い」とのアンケート回答が70%であり、次回もこの内容で開催する予定です。

また、お手元に届いたかと思いますが、「SOP作成の手引き」を次回はテキストの一部にしたいと考えております。年度が変わり、今年度の「新任者研修会」が六月三日、参加者四十七名で中京大学文化市民会館において開催されました。

今年度は教育研修委員を各研修会で二名張り付くことと致しましたのでより充実した内容で研修ができると思います。次回詳細をご報告いたします。

広報委員会

委員長 西脇 光正

五月九日に委員会を開催し、広報誌第九六号の掲載記事について協議しました。

また六月十三日(金)午後から愛知県産業貿易会館において開催される「平成二十年環境月間講演会」の進行内容等について打合せしました。

技術委員会

委員長 長尾 隆宏

水質・土壌ワーキング 第一回共同実験は、模擬排水中のフッ素及びヒ素を対象として実施します。試料を七月下旬に配付し、報告期限は八月二十九日(金)を予定しています。

また、四月に改訂されたJIS K 0102工場排水試験方法改正説明会の伝達講習会を行いますので、その際には多くの参加をお待ちしております。

大気・悪臭ワーキング

今年度は、共同実験の計画がないので、一年かけてじっくりと検討し、多くの機関に参加して頂けるような企画をしていきます。

騒音・振動ワーキング

今年度計画中の共同実験の概要は、ある事業所の敷地境界線において騒音又は振動について測定を行う予定です。

参加募集を八月下旬～九月月上旬締め切りを十月中旬とし、測定実施日を十一月五日(水)で計画中です。稼働中の事業所の共同実験は初めてですので、多くの機関の参加を希望します。

対外交流委員会

委員長 鈴木昭人

平成二十年度第一回対外交流委員会は、平成二十年四月四日に愛環協事務局にて、開催致しました。議題内容は次のとおり

海外研修企画：海外研修に関する企画の検討を行った。訪問国はタイ、時期は十一月とし、現在、国及び環境測定分析機関を対象として、訪問先を調整している。その他、

必要事項の確認を行った。

他団体交流企画：海外研修企画へ注力するため、随時検討を進めることを確認した。

その他：今年度の委員会活動の計画概要を確認した。海外からの研修受入の無いことを確認した。

当委員会に関連した情報、ご意見等がございましたら、ブロック会議等を通じて、ご意見を発信して頂きたく宜しくお願い致します。

ホームページ委員会

委員長 金田 哲夫

四月二十五日に委員会を開催しました。また定期メンテナンスを三月二十八日、六月二日に実施しました。

委員会では、今年度の方針として前年に続き協会行事ならびに協会委員会活動の掲載や資料保管等の方法や内容の拡充について各委員会の検討を重ねて行く。総会以降、各委員会との合同委員会や折衝を行う。また委員会向けのアンケートなども実施すること

となりました。内容の拡充として、トップページに行事予定をいれる事。過去データのアップについて全体トピックと会員向のトピックを分ける事などの検討を行ないました。

トップページを飾る環境・自然に係る掲載写真について

は、総会の懇親会において会員より高い評価を戴きました。今後とも会員皆さんに沢山の写真を応募して戴き、多くの写真を掲載したいと考えておりますので事務局までご提出をお願いいたします。

委員長 阪野 二郎

五月二十七日に開催しました準備委員会としては、愛環協の設立趣旨、社会的立場、活動状況からみて「公益社団法人」を

目指すことと、二十年度は「公益法人制度改革対応委員会」を立ち上げ、対応の推進を図ることを七月開催予定の総務委員会を経て理事会に諮ります。

公益法人制度改革対応委員会設置内規(案)、委員メンバー(案)、移行スケジュール(案)を作成しました。

ブロック会議にて正会員の「ご意見を伺いながら制度改革に対応していきます。」

談話室(新聞記事から)

地球温暖化対策としての二酸化炭素の排出量削減は待ったなしの状況だといわれている。このような中で、CO2主因説に真っ向から対立する説もある

ことは知っていたが、ここで紹介するのは今年三月の「環境新聞」に連載された「地球温暖化を見つめ直す」という記事で、筆者は東京工大の地球惑星専攻教授丸山茂徳氏である。

一九四〇～一九八〇年にかけて人間は多量にCO2を排出していたが、この期間は長期的に寒冷化の傾向にあったとした上で、まず、デンマーク

国立宇宙センターのスペース・マルク博士の説を紹介している。博士の説によれば、太陽の黒点数と地球に降り注ぐ宇宙線の間には強い相関関係が見られ

宇宙線量の変化と地球の温度変化もよく一致しているという。このことは先に述べた寒冷化現象ともよく対応するという。

さらに、宇宙線量の変化が雲量に影響するとされ、このことも低層雲についてよく合致しているという。宇宙線は雲の核となっており、宇宙線が減少すると雲も少なくなり温暖化が進む

雲量が1%減るだけで気温が1上がるというからCO2の増減による影響とは桁が違つ。

これに加えて丸山氏は地球磁場の変化の影響を考えている。宇宙線をはね返す役割を持つ地球磁場がどんどん弱まっているという。磁場が減少す

ると宇宙線の入射が多くなり、その分雲量が増えて寒冷化する。さらに地球の公転周期や地軸の傾きの変化が気候に影響するというミコランコビッチサイクル説では、約2千年後に本当の氷河期に突入するといわれており、丸山氏も2千5年から寒冷化が始まっていると考えている。

このように丸山氏はIPCCとは異なる意見を持っているのであるが、かといってIPCCを否定しているわけではなく、二つの点で高く評価している。ひとつは、科学と政治を近づけたこと、もう一つは省エネ社会への道をつけたことだという。

2千年問題の元凶は人口問題と食糧危機である。その主たる原因が化石燃料の消費と枯渇であり、結局は、化石燃料を節約しながら長く使い続けるしかない。日本で言えば、適正な人口は4千万人ほどと推測され、省エネ技術などに投資し、少子高齢化で人口減少に対応できる国を率先して作らねばならない。

それが、日本が歴史上意味のある国家として評価されるポイントである。

以上、IPCCの方向とは相反するものの説得力のある結論であった。(広報委員 K・S)

測定機紹介

株式会社 環境公害センター

特殊分析部 寺田泰章

《会社概要》

環境公害センターは昭和四十八年六月に設立され環境や公害規制の環境分析所として当初は四、五人からスタートし、現在では従業員六十名ほどの会社となりました。

事業内容は水質、大気、悪臭、土壌、底質などの計量証明事業や特定計量証明事業(ダイオキシン類)を中心としつつ、石綿関連、環境アセスメント関連、ビル管理衛生関連、水道水、空気環境関連、作業環境測定など環境・公害・衛生分野の総合分析業務を行っております。

《特殊分析部配属》

私が株環境公害センターに入社して(九年目を迎えます。私の入社当時、ダイオキシンが社会問題となり国がダイオキシン特措法を成立させたころでした。我が社の組織は営業部、業務部、分析部、特殊分析部、総務部、品質保証部と六部門に分かれており、入社後、私が配属された部署はダイオキシン類の分析業務を行う特殊分析部でした。

当時、特殊分析部は二名ほどで、まだ新しい組織としてスタートしたばかりでした。ダイオキシン分析は微量物質を分析することから分析工程が非常に多く測定までの前処理、測定から結果までの機器測定と、どちらも非常に人手と時間を要する分析でした。

ダイオキシン測定方法(公定法)や世の中の技術レベルも当初は非常に浅く、様々な環境媒体に対して測定困難な検体や測定機器のトラブルなどがあり、必死に情報収集、ルーチン業務後多くの実験や工程の見直しなど苦労した思い出があります。

《精度管理》

私が二年目のころ「精度管理」というフレーズが業界内で言われ始めました。微量分析であるダイオキシン分析で分析精度が問題となり、環境省受注資格審査、MLAP制度、ISO/IEC17025などが始まり、私自身、要求されている事項が何故必要なのか?よく理解ができませんでした。試薬のLot管理などLotを記録しても意味

がないし手間がかかる。「めんどくさい」というのが本心でした。ただ制度ができた以上社会ニーズとして、たとえ面倒でも記録やSOP作成を必死に勉強しながらやっていました。

今思えば当初は理解できなかった要求事項がとてま大切だなと痛感させられる場面がよくあります。たとえば試薬Lotでもメーカーや試薬の性質上Lotによつて大きく性能が違つて、その結果、分析工程に影響が出たり、結果に影響が及ぶ場合もあります。もしLot管理ができていなかったら、原因は分からずじまいだったかもしれませぬ。

特殊分析部は環境省受注資格審査、MLAP制度、ISO/IEC17025を取得し年一回はなんらかの審査を受けています。そのせいか特殊分析部全員が精度管理の重要性をみんなが理解し部員の教育にも大きく役に立っているとあります。また、精度管理は特別なことをするのでなく普段やっていることが、あたりまえのように行うことが大切だと思えます。

《飛躍》

特殊分析部はダイオキシン

分析のみだけでなく、HRGC、HRMS、GC、ECDでのPCB分析と迅速定量分析の開発や、応用技術を利用した他の分析法の構築など大変忙しい部署ですが、部員のチームワークがとても優れた明るい部署です。

《最後に》

精度管理(品質)を高めることが業界内に求められた社会ニーズでしたが、今ではスピードも求められ、急激な分析単価の下落、さらに追い討ちをかけるようにして原油の高騰による分析材料の値上げなど私たちを取り囲む社会情勢は厳しさが増す中ですが、この社会ニーズにこたえていくよう全社員一丸となつて取り組んでいきたいと思えます。



特殊部のメンバーです。

ちなみに筆者は左から二番目

事務局からのお知らせ
第二回ISO/IEC
17025研修会

平成二十年八月七日(木)
中京大学文化市民会館

中堅実務者研修会
平成二十年九月十八日(木)
十九日(金)

名古屋都市センター

第三回ISO/IEC
17025研修会

平成二十年十月九日(木)
中京大学文化市民会館

環境計量士等研修会
平成二十年十一月七日(金)

中京大学文化市民会館

皆様の参加を宜しくお願いいたします。

事務局は夏期休暇として八月十三日から十五日までお休みを頂きます。



◆ ◆ 趣味のコーナー ◆ ◆

趣味は王なるかな

壽化工機株 原田 和也

私の趣味は、アマチュア無線と鉄道です。社日本アマチュア無線連盟岐阜支部役員をしている関係で、私のアマチュア無線活動の幅は広がっています。アマチュア無線の楽しみ方は、このコーナーで既に紹介済みです。ここでは鉄道に関して述べたいと思います。

私が鉄道趣味の世界に踏み込んだのは小学校三年生のときでした。鉄道に詳しい同級生がいて、彼は東海道本線を走る寝台特急の列車ダイヤを正確に記憶していました。私は彼を越えようとは思わなかったのですが、気づいてみれば鉄道の世界にドップリ漬かっています。(しかし今でも彼には敵わないでしょう)

鉄道趣味はいわゆる「オタク的趣味」といわれてきましたが、鉄道乗り尽くしの旅をテーマにしたTV番組や、鉄道アイドルの活躍のおかげで、鉄道趣味が市民権を得たような印象を受けます。

ひと口に鉄道趣味といっても、列車に乗ること、写真撮

影、切符の収集、模型、廃線跡探索など、さまざまな分野があります。また、全国各地時には世界各国へ足を運ぶ人もいれば、特定の地域・会社に特化している人もいます。

私は：といえば、主に消え行くものを追いかけています。信越本線(碓氷峠)を始め、名鉄谷汲線などの廃止路線、真岡鐵道(茨城・栃木)のデ

イーゼル機関車の引退、JR八戸線(青森・岩手)の腕木式信号機などがあります。遠隔地にはおいそれとは出掛けられませんが、今年は、三月

出掛けてきました。地方の鉄道はどこも少子化の影響で乗客が減少していき、文字通り「ワンマン列車」が走ることもあります。このため、赤字路線の廃止に追い込まれる鉄道は少なくありません。大手私鉄も例外ではなく、名鉄・近鉄も赤字線の廃止や分社化が相次ぎました。

廃止の直前には全国各地から熱心な鉄道ファンは勿論、

それまで列車に見向きもしなかつたような地元民までがお別れ乗車に集まるので、閑散としていた列車が一転して殺人的に混雑するようになり

ます。名鉄下芥見駅の駅員が廃止間際の乗客増加を見て「普段これだけ乗客があれば、美濃町線が廃止されることはないけどなあ」と嘆いていたことが思い出されます。

路線が廃止されるときは、地方ニュースでは取り上げられても全国ニュースにはま

りません。しかし、十年前に廃止された信越本線・横川(軽井沢)に関しては、碓氷峠を登る最終列車の発車の様子を全国ニュースで生中継していました。私もテレビの前で最終列車を見送りました。

「線路は続くよどこまでも」。これからもこの趣味を大切にしたいと思います。夢はJR約二万km全線乗車です。



栗原園鉄道若柳駅の腕木式信号 [宮城県栗原市] 2007/2/24撮影、4/1廃線

環境・時の話題

「COP10について」

皆さんもよくご存知の通り、国連の第十回生物多様性条約締約国会議(COP10)が、二〇一〇年に名古屋市で開催されるのが正式に決まりました。六月の当協会主催の環境月間講演会でも、特別公演として、愛知県林顧問より「COP10について」と題してご講演いただきました。そこで今回は、COP10について概要を紹介いたします。



生物多様性とは？

「生物多様性」の定義は様々なものがあり、全てを理解することは難しいですが、「生態系などや地球全体に多様な生物が存在していること」や「ある地域における遺伝子・

種・生態系の総称」などと捉えると比較的分かりやすいかも知れません。前者は何となく理解できそうですが、後者は少し難しくそうですので、少し説明を加えます。

遺伝的多様性：ある1種の中での遺伝子の多様性。人(ホモサピエンス)は一つの種(ヒト種)であり、遺伝子の違いにより、肌や目の色も違うし、体の大きさや顔も違います。いわゆるイヌ(イエイヌ種)も、同様に様々な種類のイヌがいます。

種多様性：多くの種が存在すること。鳥類は動物界・脊椎動物門・鳥綱を構成するグループですが、非常に多数の種が存在します。生態系の多様性：生態系そのものの多様性。

生物多様性の現状

科学的に明らかにされている生物種一七五万種(未知のものを含めると三千万種)が地球の歴史始まって以来の速さで、年々確実に絶滅しており(年間四万種)、現代は第六の大量絶滅時代ではないかと疑われています。この生物種の減少の原因のほとんどは人間の活動であると言われています。

生物多様性条約

生物多様性条約は、ラムサール条約やワシントン条約などの特定の地域、種の保全の取組みだけでは生物多様性の保全を図ることができないとの認識から、新たな包括的な枠組みとして提案されました。(ラムサール条約：水鳥にとつて重要な湿地の保存に関する国際条約一九七五年発効)(ワシントン条約：絶滅の恐れのある野生動物植物の種国際取引に関する国際条約一九七五年発効)

一九九二年にリオ・デ・ジャネイロ(ブラジル)で開催された国連環境開発会議(地球サミット)で採択され、翌一九九三年に発効しました。

・日本は一九九三年に締約国(締約国数は百九十の国、地域(事務局はカナダ・モントリオール))

・生物多様性の保全や持続可能な利用方法、遺伝資源による利益の公平な配分などを議論

COP10とは?

・生物多様性条約を締結した国による定期的(二年毎)な国際会議の十回目の会議

・参加者：条約締約国の閣僚・政府関係者、NGO等約四千名

・開催期間：約三週間 カルタヘナ議定書締約国会合(MOP・一週間) 生物多様性条約締約国会議(COP・二週間) 閣僚級会合(COP第二週に三日間)

・主な議題：二〇一〇年は「生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」とした目標の期限にあたるため、達成状況の検証、新たな目標の設定が議論される節目の会議

・場所：名古屋国際会議場(熱田区)

さいごに

愛知県と名古屋は国際会議のホストとして、検討会議などを設置し戦略策定に取り組んでいます。また県環境部主導で庁内各部署の横断的なプロジェクトチームを作り具体的な施策を練る方針です。

参考資料

・環境月間講演会資料「生物多様性と第十回締約国会議(COP10)について」(愛知県林清比古顧問)

・生物多様性条約第十回締約国会議誘致委員会ホームページ

・ウィキペディア(検索エンジン)

・日本経済新聞(二〇〇八年五月三十一日付)

(文責 大場恵史)

社団法人愛知県環境測定分析協会 海外調査事業のお知らせ

社団法人愛知県環境測定分析協会は、二〇〇八年度海外調査事業として次の事業を主催します。

会員各位におかれましては、多数ご参加下さるよう、お願い申し上げます。

主催日：平成二十年十一月十二日(水)十一月十六日(三泊五日)訪問国：タイ(バンコク市内)

対象：愛環協会員企業定員二十名・最小催行人員七名(旅行代金：お一人様 十九万円)(旅行代金変動の可能性有り)申込方法：別途、事務局連絡による申込書様式に必要事項を記入し、ファックス又はeメール等を用いて、

愛環協事務局へ送付

申込締切日：平成二十年八月三十一日(日)

取扱旅行会社：近畿日本ツーリスト特約店 東洋ツーリスト (名古屋市中区丸の内三 十六 二十七)

日次	月日(曜)	発着地/滞在地名	発着時間	交通機関名	適用	ホテル	食事
1	11/12(水)	中部国際空港	午前	タイ国際航空 T G - 645	出国手続き 空路 パンコクへ 機内にて食事 入国手続き ホテルに向けて出発 レストランにて夕食	バンコク市内: デイッシュタニホテル クラス	機内 夕
		バンコク	午後	混載車			
2	11/13(木)	バンコク	午前	専用車	ホテルにて朝食 ラボ視察 レストランにて昼食 ラボ視察 レストランにて夕食	バンコク市内: デイッシュタニホテル クラス	朝 昼 夕
		バンコク	午後	専用車			
3	11/14(金)	バンコク	午前	専用車	ホテルにて朝食 ラボ視察 レストランにて昼食 ラボ視察 レストランにて夕食	バンコク市内: デイッシュタニホテル クラス	朝 昼 夕
		バンコク	午後	専用車			
4	11/15(土)	バンコク	午前	専用車	ホテルにて朝食 アユタヤ市内観光 レストランにて昼食 パンコク市内観光 レストランにて夕食 空港へご案内		朝 昼 夕
		バンコク	午後	専用車			
5	11/16(日)	バンコク	深夜	タイ国際航空 T G - 644	出国手続き 空路 帰国の途へ 機内にて食事 入国手続き 解散		機内
		中部国際空港	朝				

編集後記

子供達が待ちに待った「夏休み」がやって来た。今の小学生の夏休みの過ごし方楽しみ方が私の幼少の頃とは変わってきた。学校のプール使用日に限られ、お寺・神社の境内での蝉取りや子供達が集まって遊ぶ事がめっきり少なくなつた。その分、家や学習塾などで過ごす事が多くなつたようだ。社会人になつて記憶に残っている夏休みシーンを尋ねられたら今の子供達はどのように返答するのだろうか?

家族と過ごす時間が多い夏休みだけに「夏休みの思い出」と題した作文を無理なく書ける思い出は、心の成長に大切な役割をはたす補助栄養だと思つたから、親子のふれあい、「コミュニケーション」を大切にしたい。

発行人 愛知県環境測定分析協会
会長 濱地 光男

〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com

編集 愛知県環境測定分析協会
広報委員会